

第26期日本学術会議物理学委員会素粒子物理学・原子核物理学分科会（第2回）

議事要旨

日時：令和7年10月14日（金）18：00～20：00

会場：遠隔会議

出席者：市川温子、櫻井博儀、青木慎也、飯嶋徹、大塚孝治、杉立徹、関口仁子、田村裕和、中野貴志、中畑雅行、中村哲、野尻美保子、肥山詠美子、福嶋健二、道園真一郎、山崎祐司、横山広美

議題

1. 学術会議の動向について
2. 未来の学術振興構想について
3. 本分科会に関連したシンポジウム開催について

1. 学術会議の動向について

櫻井委員長より、(1)学術会議の法人化に向けた進捗状況、(2)課題別委員会「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」、(3)「カーボンニュートラルに関する連絡会議」、(4)物理学委員会主催シンポジウム、について以下の通り報告があった。

- (1) 法案が国会で可決された後、新法人に向けた準備が進んでおり、10月27-28日の総会でその内容が報告される予定である。
- (2) 検討委員会メンバーの市川副委員長が素粒子・原子核コミュニティーに依頼したアンケートの結果が、検討委員会で示され、議論された。この結果を含む提言が検討委員会から表出される予定である。
- (3) 26期の連絡会議メンバーとして櫻井委員長が登録された。
- (4) シンポジウム「量子が世界を変える 科学の100年と未来への挑戦」が11月15日に開催される予定である。

2. 未来の学術振興構想について

素粒子原子核物理学分野からの提案について情報共有が行われた。物理学委員会が主導する研究会が近く開催される。

3. 本分科会に関連したシンポジウム開催について

標記シンポジウムについて、櫻井委員長から提案があった。意見交換の結果、高校生や大学1-2年生をターゲットにした、素粒子原子核物理学分野および関連した宇宙天文分野の最前線に関する一般向けシンポジウムの企画を進めることで合意に達した。